

女性活躍推進フォーラムin東京 第1回

究極の判断力を養うトレーニング ゲームで実践

人材育成委員会主催、今年度第1回の「女性活躍推進フォーラムin東京」が6月21日、東京・日本橋三洋グループビル8階会議室で開かれた。ホール会員企業14社から女性正規社員19人が参加した。

冒頭、前田竜哉委員長は、「ダイバーシティとしていろいろな多様性が言われる中で、女性の多様性を生かすことは一番身近で一番成果が出ると言われています。事実女性の発想から生まれた商品など女性の活躍が企業の競争力強化につながっている例が目立ちます。この業界でも女性の多様性を生かして、企業の成長、業界の発展につなげて行きたいという思いからフォーラムを開催しています。この業界の現状を見ると、①女性が安心して働ける環境への支援 ②

キャリア形成して活躍してくれる女性の増加 ③何よりも定着してくれる女性の増加——の3つの軸が重要です。みなさんも来年1月の最終回まで、この3つの軸を頭に入れ、業界をもっと魅力的にする企画を立案してください」とあいさつした。

立川美夏子氏が講演

実務講座では、(株)エンタテインメントビジネス総合研究所の立川美夏子氏が「インバスケット思考——究極の判断力を身につける!!——」と題して講演した。インバスケットとは未処理箱のこと。「未処理箱にたまっている未解決の複数案件について、限られた時間に優先順位をつけて処理していくトレーニングゲームです。問題解決力、判断力を身につけることで、民間企業の幹部やエリート登用ツールとして使われています。1950年代、アメリカで戦場に送り出す前の兵士やパイロットの教育に使われたのが起源です」と説明した。さっそくゲーム開始。設定では、主人公はたこ焼き屋でアルバイト歴7年の里奈さん(26)で、新しく



講演する立川美夏子氏



初対面同士だが企画の実現に話が弾む



全員集合した参加者(前2列)と人材育成委員会メンバー等(後列)

テーマと参加者 (順不同、敬称略、略略)

Aグループ「キャリアプランニング」＝渡部友美(アブリイ)、坂梨理紗(東和産業)、中窪安美(日拓ホーム)、萩原奈津枝(NEXUS)、塚原沙英(安田屋)

Bグループ「キャリアプランニング」＝福本朋香(オータ)、土屋優夏(サンキュー)、徳井晴純(善都)、石坂由仁子(ニラク)、中川涼子(マルハン)

Cグループ「ワーク・ライフ・バランス」＝石橋朋佳(アサヒディード)、日野あかり(オータ)、松本沙也果(日拓ホーム)、小林香月(ピーアークホールディングス)、宮田玲子(安田屋)

Dグループ「ワーク・ライフ・バランス」＝柳澤知香(東和産業)、白戸千裕(平成観光)、酒井英三子(マルハン)、八木橋佳代子(メッセ)

開設する3号店の店長に抜擢された。ところがオープン当日、トラブルや用事が10件殺到した。厨房から「入荷したカツオが少し臭う」「1号店と同じ焼き加減にならない」「隣的美容院から「オタクの開店行列がウチの出入り口をふさいでいる」、アルバイトの女性から「子供が熱出しちゃって休みたい」、1号店の常連客から「開店おめでとう

とう。もう入れる？」の電話等々。これらについて諸々の状況を考慮しながら、里奈さんになったつもりで「重要で緊急」「重要だが緊急性は薄い」「重要ではないが緊急性あり」「重要度も緊急性も薄い」の優先順位をつけて処理していく。

参加者たちの処理結果を評価した立川氏は、問題解決力を身につけるには判断力が大事とし、判断力を磨くために重要なのは、①結論に至るまでのプロセス（問題発見から情報収集、対策立案、行動、適任者決定）②客観性 ③比較検討 ④意思決定を明確に伝える——など7項目を挙げた。立川氏は「案件を解く癖をつけることで、通常の仕事の中で優先順位決定から問題解決へとスムーズに行けます。案件は自分でもつくれるから、ふだんから訓練してください」と結んだ。

4班に分かれ企画立案

この後、グループディスカッションに移り、4グループ（4、5人）が、「キャリアプランニング」「ワーク・ライフ・バランス」の2テーマに沿って自分たちの企画を立てた。その企画についての現状の課題を共有し、企画実現に必要なことの洗い出しを行った上、次

回（9月13日）までの課題設定と役割分担を決めた。フォーラムはその後、次回第3回（11月21日）、最終回（来年1月24日）と同じメンバーで開かれ、最終回には「自社に持ち帰って、実現可能な企画のプレゼンテーション」を行うことになっている。

最後に場所を変えて懇親会が開かれた。グループディスカッションを通じて知り合った他社の女性社員たちと、一層打ち解けて人脈ネットワークづくりに励んだ。

東京でのフォーラム開催は今年で4年目。また九州でも今年3回開催の予定で、こちらは3年目となる。

遊技産業新経営者会議

5年・10年後を考える

グループに分かれ意見交換

遊技産業新経営者会議（担当理事・韓裕副会長、リーダー・西村拓郎理事 東京都・関東支部長）が6月25日、東京・日本橋三洋グループビルで開かれ、日工組の榎本善紀副理事長の講演と、来年2月に開催が予定されている日遊協30周年記念事業にリンクするテーマ「5年後、10年後の遊技産業の在

5年後、10年後の遊技産業の在り方について若手経営者が議論し発表



り方」を題材にしたグループディスカッションが行われた。

講演を行った榎本氏は新基準パチンコ機の概要や開発の進捗状況、今後の見通しなどについて私見を交えながら解説。

続いて行われたグループディスカッションでは、今後の遊技産業の在り方について、①5年後に向

け遊技機コスト削減へのアプローチ、②10年後に向けIT社会における存在価値、③社会から理解を得られる産業となるための課題と取組み——という3つの視点で議論を行い最終的に各グループの代表が発表した。

人材育成委員会

6月21日

日本橋三洋グループビル
出席委員等16人

「働き方改革」など候補 今後のフォーラム

8月23日と来年2月7日に予定される人材育成フォーラムのテーマを協議した。会員企業の人事担当者にアンケートを出して意見を募ったところ、「企業の新陳代謝」「働き方改革」「中堅社員育成」など6項目が候補に挙げたが決めきれず、なおも検討を加えることで次回委員会（7月13日）まで持ち越した。

人材育成フォーラムは、「人」に関する部門の担当者たちの情報共有の場として、2014年暮れまで13回開かれていた。15年以降、女性活躍推進フォーラムに集中したこともあって中断していたが、17年11月に第14回として再開された。